

令和 5 年度事業報告書

公益社団法人 被害者サポートセンターおかやま (V S C O)

令和 5 年度事業の状況

1 はじめに

当センターは、平成 15 年 11 月 29 日の発足以来、23 年 3 月には岡山県公安委員会から「犯罪被害者等早期援助団体」の指定、25 年 4 月には岡山県知事から公益社団法人の認定を受け、殺人、傷害、性犯罪、交通事故、DV、ストーカー、児童・高齢者・障がい者虐待などの犯罪被害者等が受けた被害の回復又は軽減に資するために、電話・面接相談、専門家への橋渡し・裁判支援・生活支援・心の支援などの直接支援、自助グループの支援及び犯罪被害者等給付金支給の申請補助など、犯罪被害者支援のための活動を実施している。また、これらの活動と密接不可分である他機関等との連携、支援員の養成・研修及び広報・啓発の活動も展開している。

さらに、近年、性被害の相談が非常に多いことから、28 年度に「性犯罪被害者等支援センターおかやま」を立ち上げ、性犯罪被害に特化した専用電話を設置し、相談支援体制の強化等を図ってきたが、令和 2 年 9 月に名称を「性暴力被害者支援センター『おかやま心』」に変更するとともに、3 年度から県の委託を受け、ワンストップ支援センターとしての更なる相談機能の強化並びに相談窓口の周知拡大等に努めているところである。

2 役員等

代表理事	平松敏男	9月14日～加藤裕司
業務執行理事	嶋村 稔、片山 文	
理事	中島豊爾、若林久義、加藤裕司、難波 光、松村正基	
監事	森本治雄	
顧問	村田吉隆、岡崎 彬、皆木英也、松田 久	
協力スタッフ	精神科医：堀井茂男、来住由樹 弁護士：14人	
事務局長	草加成章	

支援員 (令和 6 年 3 月 1 日現在)

犯罪被害相談員 7 名、犯罪被害者等給付金申請補助員 4 名、電話・面接相談員 18 名、犯罪被害者直接支援員 12 名、性暴力被害相談員 6 名、自助グループ支援員 4 名

3 主な事項

(1) 令和 5 年 6 月 17 日 令和 5 年度定時社員総会

令和 4 年度事業報告を行い、同年度決算書、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録が承認された。また、理事 1 人 (平松敏男) が選任された。

なお、理事会は月 1 回開催した。(4 月 24 日、5 月 22 日、6 月 13 日・17 日、7 月

20日、8月17日、9月14日、10月11日、11月16日、12月14日、1月23日、2月14日、3月18日)

6月17日の理事会において、代表理事に平松敏男理事を選定した。また、9月14日の理事会において、代表理事に加藤裕司理事を選定した。

公益社団法人移行により、理事会の承認事項が増えたが、財政基盤づくり、広報啓発活動、性暴力被害者のための支援活動等について、活発に議論し、議決している。

(2) 会員の推移

正会員	令和5年4月1日現在	個人 93名	団体 2団体
	令和6年3月31日現在	個人 82名	団体 2団体
賛助会員	令和5年4月1日現在	個人 147名	団体 50団体
	令和6年3月31日現在	個人 144名	団体 49団体

(3) 表彰状・感謝状の贈呈

日時 令和5年6月17日（令和5年度定時社員総会）

表彰状受賞者 該当者なし

感謝状受賞者 正会員（個人3名）正会員歴10年

賛助会員（個人7名、団体1）賛助会員歴10年

多額寄付者（個人1名、団体4）

事業推進協力者（該当者なし）

4 主な事業及び活動内容

(1) 相談・直接支援事業、普及啓発事業について

岡山県警察本部から、電話相談、面接相談、直接支援、広報啓発業務を受託するため、被害者相談・直接支援等業務委託契約を締結した。

岡山県から、ワンストップ支援センターの運営等を受託するため、性犯罪・性暴力被害者相談支援体制強化事業及び広報啓発業務、県見舞金申請業務等の支援を受託するため、犯罪被害者等見舞金等申請支援及びコーディネート業務委託契約を締結した。また、犯罪被害者等支援のための普及啓発事業を受託するため、業務委託契約を締結し、「犯罪被害者支援講演会」を開催した。

実績は次のとおり

ア 相談事業

実績は、別紙「被害者支援活動の実施状況」のとおり

イ 直接支援事業

(ア) 実績は、別紙「被害者支援活動の実施状況」のとおり

(イ) VSCO規程により、犯罪被害者支援金は30件支給した。同じく、性暴力被害者のための医療費等支援金は4件支給した。3年度から岡山県性犯罪・性暴力被害者のための医療費等公費支援事業補助金を活用している。

ウ 広報啓発事業

(ア) 岡山県委託事業

- ・令和5年10月1日(土)ピュアリティまきび(岡山市)参加157人
講演 「交通事故と被害者支援」～家族の愛～
講師 松永 拓也 氏(交通事故被害者遺族)
ミニコンサート 弦楽五重奏「アンサンブル・ソノーレ」
- ・「おかやま心」事業として、性暴力被害者支援センター「おかやま心」のホームページを開設し、相談窓口の周知や認知度のアップに取り組んだ。
- ・「おかやま心」のSNS動画広告を7月から12月にかけて92日間配信した。
- ・犯罪被害者支援大学生グループ「あした彩」のメンバーが企画立案した大学生・専門学校生向けの啓発用リーフレットを12,000枚増刷し、県内大学・専門学校の新入生に配布した。

(ウ) 岡山県警察委託事業

- ・令和5年11月26日(日)ピュアリティまきび(岡山市)参加102人
講演 「子どもへの性暴力は防げる！」～性犯罪の病理と対策～
講師 福井 裕輝 氏(精神科医、医学博士)
コンサート 岡山県警察警音楽隊

(エ) 岡山市との共催事業 犯罪被害者支援を考える市民のつどい

- ・令和6年2月3日(土)ピュアリティまきび(岡山市)参加65人
講演 「ある日突然、最愛の母の生命を奪われて」-残された兄妹の思い-
講師 栗原 一二三、栗原 穂瑞 氏(犯罪被害者遺族)
ミニコンサート LeapRick(リープリック)

(オ) その他の活動

- ・岡山県「犯罪被害者等施策関係職員研修」、岡山県教育庁「e-ラーニング」、岡山市「犯罪被害者支援に関する職員研修」、岡山医療福祉専門学校「セクシャリティーとジェンダーに関する健康障害～性暴力について～」、倉敷商業高校「性暴力被害の実情と支援～被害者にも加害者にもならないために～」、笠岡高校・笠岡工業高校「デートDV予防・啓発について」、岡山弁護士会「被害者支援研修」、福井県「犯罪被害者等支援相談員研修」、鳥取市「犯罪被害者支援に係る職員研修」にて講演・研修会等を開催
- ・機関誌「いつでもそばに」第19号を発行(2,000部)
- ・ホームページで、「犯罪にあった方へ」「性暴力にあった方へ」、「活動状況」、「新着情報」、「自治体の被害者支援」、「会員・組織、機関誌」、「VSCOの講師派遣制度」、「VSCOのテーマソング—窓の外には—」、「入会のお願い」、「寄附のお願い」、等々を掲載
- ・啓発チラシ配布等で、県民や被害者に向けて、講演会・フォーラムの開催や電話相談等を紹介
- ・関係団体や関係機関との連携として、県医師会、県産婦人科医会及び加盟医療

- 機関との連絡会、おかやま被害者支援ネットワーク会議等へ参加
- ・関係団体（者）への広報啓発として、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、町内会等への講話、大学・専門学校、市町村役場等へ機関誌・ポスターを持参しVSCOの活動を紹介

(2) 支援員等養成研修事業

- ア 支援員養成基礎講座・中級講座(岡山県共同募金会と日本財団の助成を受けて実施)

開催回数：基礎講座6回、中級講座6回

受講者数：17名(大学生4名・一般13名)、中級講座3名

修了者数：基礎講座17名(大学生4名・一般13名)、中級講座2名

新規支援員登録者数：1名

【基礎講座】

開催月日	内 容	参加人数
5月28日	開講式(代表理事挨拶・自己紹介) 犯罪被害者の現状と被害者支援の歴史 経済的被害の回復について 講師：平松敏男(弁護士) VSCOの活動について 講師：支援活動責任者・研修委員	学生4人 一般13人
6月11日	ストーカー被害者のサポート 講師：岡山県警本部人身安全対策課 被害者支援のあり方 講師：平松敏男(弁護士)	学生4人 一般13人
6月25日	児童虐待と児童相談所の働き 講師：岡山市こども総合相談所 性犯罪被害者のサポート 講師：壺内昌子(精神科医)	学生3人 一般13人
6月30日	刑事裁判の傍聴と支援と解説 講師：代表理事・研修委員	学生1人 一般5人
7月9日	悪徳商法など消費者被害について 講師：NPO法人 消費者ネットおかやま 女性の被害(DV等)の対応について 講師：ウィズセンター	学生4人 一般12名
7月23日	被害者・被害者遺族が望むもの 講師：加藤裕司 閉講式(代表理事挨拶・学生への修了書交付)	学生4人 一般13名

【中級講座】

開催月日	内 容	参加人数
8月20日	開講式（代表理事挨拶・自己紹介） 支援員採用の説明（VSCO 研修委員長） 被害者支援とは（DVD視聴） 講師：VSCO 研修委員 自分自身を知りましょう（心理テスト） 講師：公認心理師	一般 3人
8月27日	電話相談の基礎 講師：VSCO 研修委員 電話相談の実際① 講師：VSCO 研修委員	一般 3人
9月20日	刑事裁判の傍聴と支援と解説 講師：岡山地方検察庁検察官	一般 3人
9月24日	被害者支援を考える ～精神科医の立場から～ 講師：来住由樹（岡山県精神科医療センター院長） 電話相談の実際② ～ロールプレイ～ 講師：VSCO 研修委員	一般 3人
10月8日	犯罪被害者の心理とその支援（二次受傷を含む） 講師：公認心理師 直接支援の実際① 講師：VSCO 研修委員	一般 3人
10月22日	直接支援の実際②③ 講師：VSCO 研修委員 閉講式（代表理事挨拶・修了書交付）	一般 3人
11月12日	面接 講師：堀井茂男（公益財団法人慈圭会 慈圭病院理事長）	一般 1人

成果と課題

受講者総数17人中、県内3大学から4人の大学生が初級（基礎講座）を受講し4人全員に修了証を交付した。若者が被害者支援の大切さを理解しボランティア活動を推進するシステムづくりのきっかけとなった。

一般受講者は、13人全員が初級（基礎講座）を修了し、その内3人が中級講座を受講、2人が全過程を修了した。その内1人を支援員として採用し、1月から支援員補助として電話相談に携わっている。

人材育成には数年を要するため、支援員の高齢化が進む中で、支援員の育成が喫緊の課題となっている。支援員候補者発掘のためには、毎年養成講座を行

っていく必要があり、受講者の募集を広く呼びかける必要がある。

受講した学生の感想

- ・ 様々な犯罪被害に関する講義を受け、被害者の気持ちが理解でき、被害者に寄り添うことの大切さが分かった。
- ・ 事件報道も今まで感じなかったことを考えるようになった。
- ・ 様々な職種の人が被害者支援に尽力していることが分かった。
- ・ 被害者支援に関する法整備が最近のことに驚き、なぜもっと早く整備されなかったのかと思った。
- ・ SNSで被害者を中傷する意見があるからこそ、多くの人が被害者支援についてもっと知るべきと思った。

一般受講者の感想

- ・ 被害者に接する心構えやその技法が理解できた。
- ・ 裁判の傍聴が勉強になった。
- ・ 犯罪被害に遭うことへの認識が変わり、被害者は悪くないということが理解できた。
- ・ 被害者と直接関わることがなかった中で、被害者が加害者に伝えたいことは何か、気持ちを研ぎ澄ませて被害者の声を聴いていきたい。
- ・ 講座で学んだ被害者の心情を考慮し、二次被害を与えない被害者への接し方を心がけ、被害者等の心情等の聴取・伝達制度に臨みたい。
- ・ 被害者が希望を持って次の段階へ進めるような支援が大切だと思った。
- ・ 相談したい時に周りに誰かがいる社会、犯罪被害について社会全体の理解が深まり、被害者が声を上げやすい社会になることを望む。

イ 支援員継続研修（日本財団の助成を受けて実施）

実施日：毎月第2土曜日 17:00～19:00

研修内容、参加人数は次表のとおり 回数：9回

基礎知識の習得、事例検討等によりスキルアップを図ることができた。

【支援員継続研修】

開催月日	基礎知識	事例検討・講義等	参加
4月8日	支援員全体で共有したいこと ロールプレイの進め方 復命研修		14人
5月13日	VSCO研修資料による演習 ・ 基本的対応・電話対応 ・ 刑事手続き		11人

6月10日	犯罪被害者に対する急性期心理社会支援ガイドライン 犯罪被害者支援制度の比較 犯罪被害者電話相談にける具体的質問例	13人
7月8日	事例検討 特定少年犯罪の被害者家族に対する支援	8人
8月26日	ロールプレイ ストーカー被害事案	11人
10月1日	講演「交通事故と被害者支援」 講師：松永拓也（交通事故被害者遺族） レポート報告	17人
11月11日	被害者支援の倫理 講師：NNVS 認定コーディネーター・VSCO 業務執行理事 研修報告	11人
12月9日	ロールプレイ ①電話相談（対応困難例） ②電話相談（過去の性被害） VSCOの現状について	9人
2月10日	性暴力被害者の声 講師：性暴力被害者	11人
3月2日	刑法改正について 不同意性交等罪・不同意わいせつ罪 事例検討（ワークシート）	10人

ウ 全国ネットワーク等主催の研修（日本財団の助成を受けて実施）

- 7月8日・9日：性暴力対応看護師養成講座（SANE）（東京）1名参加
- 7月22日・23日：第8回性暴力救援センター全国研修会（東京）1名参加
- 8月4日・5日：支援活動責任者研修（東京）1名参加
- 9月9日・10日：中四国ブロック質の向上研修上半期研修会（島根）3名参加
- 10月14日・15日：全国犯罪被害者支援フォーラム・秋期全国研修会
（東京）3名参加
- 12月11～15日：直接的支援実地研修（東京）1名参加
- 1月20日・21日：性暴力対応看護師養成講座（SANE）（東京）1名参加
- 3月8日・9日：中四国ブロック質の向上研修下半期研修会（香川）4名参加

（3）財政基盤の確立と事務局体制の強化

日本財団の助成を受け、先駆的なファンドレイジング活動としてコンサルタントの指導を受けた経験を生かし、賛助会員、支援自販機の設置、募金箱の設置拡大及びホンデリン

グ、赤い羽根共同募金の推進に努めている。しかしながら、地方経済の長引く景気低迷や少子高齢化の進展などにより、会員数や支援自販機による寄付金は毎年減少している。

寄付型自動販売機については、企業等に設置依頼を積極的に行ってきた。平成25年度3台（48,663円）であったが、県警察や会員・建設会社・自販機メーカーの協力等もあり平成30年度には96台まで増設することができた。しかしながら、最近では自販機の売上収入の減などにより撤去になるケースが増えるなど、68台までに急減してきており、寄付金総額は1,423,981円（昨年度比31,348円減）となった。

ホンデリングについては、気軽に協力してもらえらる寄付行為と位置づけ、ホームページへの掲載や郵便物・フォーラムの配布資料に同封するなど周知を図ってきた。インターネットによる申込も徐々に認知されるとともに「あした彩」大学生によるホンデリングプロジェクトなどにより、11月30日までに28,363円の寄付が集まった。

募金箱については、2月中に25か所回収し、182,013円（昨年度比6,770円増）の募金を獲得した。

県共同募金会のテーマ募金「地域ささえあいプロジェクト」については、50万円を目標として募金活動を行ったが、目標額を上回る募金を集め74万円の助成金交付を受けることができた。この助成金は、性暴力被害者支援センター「おかやま心」及び支援員養成講座の運営費等に充当した。

市町村補助金については、毎年要望活動等を行っているが、本年度は、11市10町2村から総額1,783,346円（昨年度比14,451円減）の補助金を受け、相談事業、広報啓発事業に充当した。

5 今後の課題

公益社団法人として12年目を迎えるが、今後も引き続き財政基盤の確立及び事務局を含めた支援体制の充実強化に向けて人材の確保を図る必要がある。

また、県民にVSCOの存在と活動内容を周知し、1人でも多くの被害者等に認知してもらえるよう広報啓発の強化を図る必要がある。

特に、県内で唯一のワンストップ支援センターである性暴力被害者支援センター「おかやま心」の機能強化、周知拡大を図ることが急務となっている。